

## 令和3年度事業報告及び附属明細書

(令和3年1月1日から令和3年12月31日まで)

### 1. 事業概況

令和2年に創設100年を迎えた当財団は、記念助成として本年3月に東京消防庁への救急車贈呈(30百万円)を行い、助成や会史の発行などの一連の記念事業を完了しました。

このような記念すべき年でありましたが、令和3年は、前年からの新型コロナウイルス感染症の蔓延が影を落とす厳しいものとなりました。ワクチンの接種率の上昇により人々の活動も次第に上向きとなり先進国を中心に経済の回復がみられるものの、まだ克服には時間がかかると思われます。

こうした環境下ですが、当会は、創設者・原田二郎が掲げた理念を基に、安定的な業務運営に努めつつ、社会環境の激しい変化にも機動的に対応し社会貢献活動の継続に努めて参ります。

各国の財政出動や中銀の超緩和姿勢により金融市場は回復し、先進国中心に経済活動も活発化しつつありますが、このことが需給に歪みをもたらす不安定要因が増大しつつあります。経済回復とインフレ率上昇を受け、米國中銀は量的緩和の縮小ペースを速めるとともに利上げに踏み切る方針であり、世界的な超低金利の環境は終焉を迎えたようです。中国の不動産バブルが破綻するのではないかと疑念やウクライナ情勢も重荷となっており、世界経済がスタグフレーションに陥る不安も無視できない状況です。

わが国においては、東京でのオリンピック・パラリンピックという歴史的イベントが無観客開催になったものの無事終了し、政治的にも総理交代・総選挙を経ての安定化により金融市場は堅調に推移しました。しかし、年末にかけ変異型コロナの発生により感染状況が予断を許さないなど、不安定要因は多く経済・金融ともにまだ手探りの状況が続いています。

社会福祉情勢については、格差拡大による子どもの貧困や貧困の連鎖、相次ぐ児童虐待の発生といった社会的な課題が山積していますが、コロナがこうした傾向に拍車をかけると懸念されます。

本年の助成ニーズについてはコロナの影響による高まりがある一方、助成事業の取りやめ・中止を余儀なくされる先もあり、まだら模様となりました。

なお、当会は休眠預金事業として「希望を未来へーこどもホスピスプロジェクト」を提案し、休眠預金の受け皿である日本民間公益活動連携機構（JANPIA）の2020年度事業に採択されました。実行団体として公募により5団体を選定し事業が進行中です。今後、当会の通常助成とは別建ての助成事業として、2024年3月までの事業期間、難病のこどもと家族のためのこどもホスピスの全国展開という社会課題の解決に取り組んでまいります。

当財団の金融資産の運用益は、超低金利環境下で債券の利回り低下を余儀なくされたものの、為替の円安方向への推移による外貨収入の増加や株式配当の回復傾向から前年を上回ることができました。賃貸住宅の事業収益も引き続き安定して推移しました。さらに、休眠預金事業の開始により39百万円の事業資金を受け取ったことが加わり、経常収益は、前年度比44百万円増加して137,075千円となりました。

助成金・寄付金支出は、記念助成の東京消防庁向けの30百万円を実施、新型の電動ストレッチャーを備えた車両が早速活躍しています。新型コロナによる事業縮小・イベント中止があり、その他の助成はほぼ前年なみとなりました。一方、休眠預金事業で29百万円の助成を実施した結果、全体では70,338千円と前年度比51百万円の大幅増加となりました。

経費については、本部建物・賃貸住宅の計画的改修約8百万円を実施した他、休眠預金事業の経費計上が9百万円ありましたが、前年比約8百万円増の66,411千円に抑えることができました。

経常費用全体としては前期比58百万円増えて136,749千円でした。

以上の結果、経常収支は前年度に比べ13百万円減少したものの、326千円の利益を確保することができました。

金融資産の評価損益等は、年末の日経平均株価が28,791円と32年ぶりの高値をつけ、為替も年末には1ドル115円と円安となったことを受け162,396千円の評価益を計上しました。

以上のような経常収支及び金融資産の評価損益等を反映した、期末の正味財産残高合計は、2,657,121千円で、前年度比180,056千円の増加となりました。

令和3年度の収益、財産状況は以上のようなものとなりましたが、今後については、新型コロナの感染状況やワクチン接種の進展が経済金融市場に与える影響を注視しつつ、世界的に高まるインフレ懸念の行方や、ウクライナ情勢や米新政権の対中国政策などコロナ以外の内外のリスク要因にも留意して、引き続き注意深く慎重な金融資産の運用に努めて参ります。

## 2. 事業別内訳

### (1) 公益事業

今年度は、記念助成に加え、休眠預金事業の助成を開始したことから助成、寄付は大幅に増加しました。助成・寄付の対象分野については、引続き若者支援に重点を置き、自立支援および休眠預金事業のこどもホスピス等の福祉活動への支援に注力しました。

助成金・寄付金の交付額は、社会事業分野に33件、36,238千円、これには、休眠預金事業の助成5件、29,190千円が含まれています。学芸技術教育分野に4件、1,300千円、寄付5件、2,800千円の合計40,338千円でした。これに加えて、100周年記念の東京消防庁向け寄附30,000千円を行った結果、助成金・寄付金合計では、43件、70,338千円で、前年度より51,012千円増加しました。助成金等の明細は、後記Ⅱの通りです。

## (2) 収益事業

本会では、助成財源創出のために賃貸マンションを保有しております。今年度はほぼ満室が続き入替による一時的空室も少なく賃貸収入は前年とほぼ同額の18,258千円となりました。

## (3) その他

本会が松阪市に寄贈した原田二郎旧宅は、市から運営委託を受けた松阪歴史文化舎による積極的な運営のもと松阪市の文化遺産として根付いてきており、本会も引続き記念展示品の提供などを通じて支援しております。原田二郎の生誕地である松阪の文化活動には、今後も地道な支援を行って参ります。なお、三重県松阪市にある原田二郎旧宅記念館の維持管理費について、平成24年から10年間、毎年100万円を松阪市に寄付するとの合意は令和4年度をもって終了となるため、以降の扱いについて、松阪市と話し合いを進めております。

以上